

OKEN

日本大学桜門建築会

<http://www.okenkai.jp/>

桜建会報

2015-March No.102

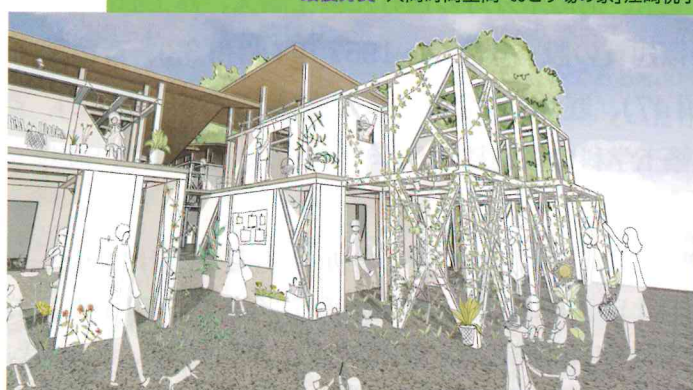
◎第6回桜門建築会学生設計コンペティション



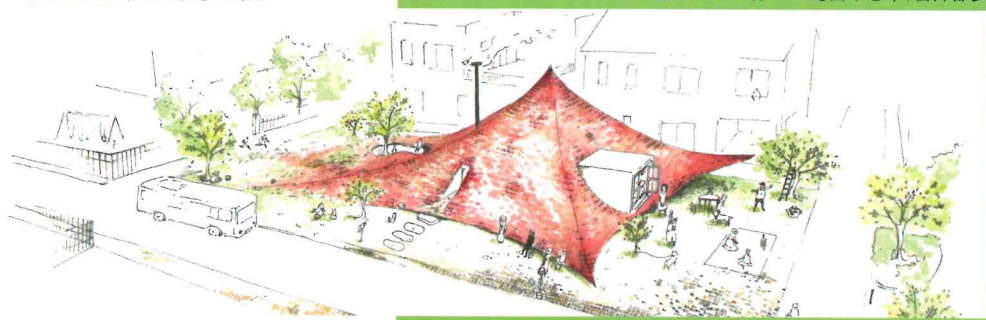
最優秀賞「人間時間空間 おどり場の家」江崎桃子



小川博央賞「間の開閉」島崎翔



菅原大輔賞「いえの溝のいえ」宮本悠平、岩井都夢



鍋島千恵賞「街と孤人の間で」山川大喜、滝村菜吞、斉藤賢司

contents

特集／桜建賞・斎藤賞・加藤賞を受賞して——2

澤田勝 市原卓 若井正一 澤田瑛那 北嶋圭二

トピックス／第6回日本大学桜門建築会学生設計コンペティション結果報告——8

研究室紹介／環境工学研究室 神田研究室 ——11

桜建賞・斎藤賞・加藤賞 平成26年度受賞者一覧——12

特集余録／授与賞一覧——14

事務局だより——14

学部ニュース——15

特集

桜建賞・斎藤賞・加藤賞を受賞して

桜建会事業の大きな柱のひとつに、在学生たちの勉学の成果を顕彰する、桜建賞・斎藤賞・加藤賞の運営がある。賞は1950年代に始まり、今年度までに、4学部、5学科の卒業生1000名以上を表彰した。学生時代に評価された受賞者の方は、なにを思い、その後の人生になにをもたらしたのか。各学部・学科の当事者に受賞したことによる影響やメリット、デメリットなどを寄稿していただいた。本人だからこそ語れる具体的なエピソードを通して、賞の意義を考えてみた。

桜建賞・斎藤賞・加藤賞の主旨と設立年

桜建賞は、学部生を対象に、卒業論文、卒業設計を選考し、斎藤賞・加藤賞は大学院博士前期課程生を対象に、環境系、構造系分野の優れた修士論文、修士設計を選考し、桜建会より授与している。理工学部建築学科の桜建賞の設立年度は、1957年(昭和32)、斎藤謙次先生の業績を記念してつくられた斎藤賞は72年(昭47)、遅れて工学部の桜建賞は1967年(昭42)、斎藤賞は73年(昭48)、77年に学科創設した海洋建築工学科の桜建賞は81年(昭56)、加藤賞は80年(昭55)である。

現時点で判明している理工建築学科の最初の桜建賞受賞者は坂巻弘一氏、岸谷篤樹氏(61年論文)、高宮眞介氏、吉田幸一氏(61年設計)、斎藤賞受賞者は渡辺勉氏[72年指導/市川清志]、竹内教文氏[72年指導/田治見宏]である。海洋建築工学科の桜建賞は伊藤和彦氏、池田清治氏、大八木洋氏、吉田滋氏、朝倉修一氏、新橋明仁氏、樋口雄一氏、水野文雄氏[81年指導/清水五郎]、加藤賞は高木儀昌氏[80年指導/佐久田昌昭]。生産工建築工学科の桜建賞は宮川茂樹氏(73年計画系)、堀有一氏(73年構造系)、斎藤賞は三村誠氏。工学部の斎藤賞は若井正一氏[74年指導/大内一雄]、短期大学部建築・生活デザイン学科の桜建賞は浅野秀樹氏(72年)。この特集を契機に各学部・学科が設置する多様な賞を整理し、表にまとめた。P14に掲載したので参照されたい。

自然体の自分でいられる原点

澤田 勝 (竹中工務店設計部部長、1981年生産工学部建築工学科卒業)

34年前の模型のない桜建賞

7年前から生産工学部の非常勤講師をしているが、最近の卒業設計の桜建賞受賞作品では、模型は不可欠であろうと、2月の卒業設計審査会に毎年参加させていただき感じたことである。私の卒業設計当時、今から34年前は模型はあまり強く要望されなかった。

事実、私の卒業設計は、13枚のA1図面のみで提出した。白黒反転した図面は、当時では珍しかった。その手法

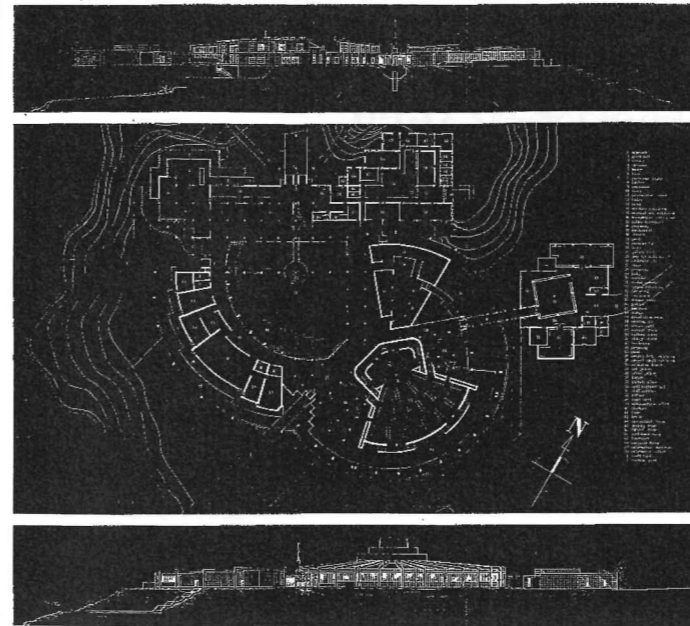
は、大学院の先輩、熊谷廣己氏(現在、芸術学部の教授)からアドバイスをいただいた。

1978年5月20日、社会問題となりつつ開港した成田空港の近くに「Narita International Gallery」という国際的展示施設を設計した。平面プランにもっとも力を注ぎ、各立面図には平面の一部とその方角からアクソメを描き、2次元で立体感を表現した。模型の代わりである。飛行機の窓から

望むことを意識した鳥瞰的デザインで勝負した。

締切日には、徹夜の連続で目を赤くしながら提出した。私は、もうそろそろ卒業設計から手を切りたかった。提出した後に卒業旅行で研究室のメンバーと、斑尾高原ヘスキーに行く約束をしていたのだ。

しかし、若木滋先生と浅野平八先生から「なぜ外観パースしかないの。模型もないし、これでは賞をとれない。



1981年の卒業設計作品集に掲載された澤田さんの「Narita International Gallery」。こうした図面に加えて、インテリアパースを追加した

インテリアパースを追加しなさい」と厳しい催促がきた。

私は、これ以上卒業設計には関わりたくなかったが、確かにインテリアパースがないのは片手落ち、少し痛いところを突かれた。しぶしぶ、数日でA1のケント紙に鉛筆でインテリアパースを仕上げ、研究室へ追加提出した。その足で、群馬の田舎を経由してスキーに出かけたことを思い出す。もう34年も前の話である。

卒業設計で大切なことは、計画地選定における社会的テーマと設計計画案、これに尽きると今でも思う。自分の学生時代の集大成として、また将来、自分が設計したいと思える施設を卒業設計で表現したらいいと思う。

大学院に進まない自分にとって、この卒業設計は、まさに学生時代の最後の設計作品。おかげさまで運よく桜建賞をいただくことができた。これもひとえに先生方の「最後まで粘れ」という後押しがあつてこそと今でも感謝している。

「ヒーローになる時、それは今」

桜建賞受賞でいちばん脚光を浴びたのは、卒業式の時であった。受賞者として名前を呼ばれ、壇上で表彰状と記念の万年筆をいただいた時だった。「ヒーローになる時それは今」と席に戻ってまわりの友人たちに言った。そのころ、甲斐バンドの「HERO(ヒー

ローになる時、それは今)」が流行していた。友人たちに、「こいつよく言うよ」と皮肉られた。でもやはり一等賞は気持ちいい。実施コンペでは、一等賞にならないと実現できないのが建築である。

卒業して34年、桜建賞を受賞した時の卒業式での昂りに勝る感動はない。若木先生からも、大いに褒められたことを今でも思い出す。「君の卒業制作には100点満点をつけた」と後からうかがった。

卒業する前年の晩秋、まだ卒業設計の初期段階のころ、竹中工務店への内定連絡がきた。喜び勇んで研究室へ報告に行った。若木先生にはたいへん喜んでいただいていたが、次のことばが今でも心に強く残る。「君は、竹中でなん年もつかない？」若木先生からすればとても竹中で通用するような学生とは思えなかったのだろう。

「竹中に入るからには、下手な卒業設計はできないよ。桜建賞をとるくらいのもりでがんばれ」と励まされた。私が卒業設計に力を入れたのはそれからだ。

建築家、狩野忠正との出会い

竹中工務店に入社後、設計部のジョブローテーション期間にONE・DAYという即日設計があつた。芦屋の高級住宅地に300㎡の住宅を設計する課題であった。当時は、そのONE・DAY



07 NARITA INTERNATIONAL GALLERY
坂巻謙次先生
昭和32年建築学科卒業、工学部建築設計主任
澤田 勝



で高得点をとらないと設計部に残れないという噂があり、見習いたちの設計部配属期間における最大のイベントであった。私は、卒業設計における平面プラン手法を用いて、庭のシンボルとしての彫刻を中心に緩やかな曲面をもつ住宅を設計した。屋根形状を意識した半円に近いドーナツ状の住宅だった。

私の案は、配属先の設計課長である狩野忠正氏から「なかなか面白い。屋根がポイントだな」とアドバイスをいただき、審査をされた徳岡部長からは、お褒めのことばをいただいた。それが今の私の原点かもしれない。

狩野氏は「三輪そうめん山本本社」の設計で「吉田五十八賞」を受賞した建築家である。そのような大課長に、見習いである私の卒業設計の話を興味深く聞いていただき、そのうえONE・DAYのスケッチまで見ていただいた。

後で聞くと「ONE・DAYの案を課長に直接見せていたのは、お前くらいだ」と狩野課の先輩方から言われた。自分の卒業設計の考え方がどこまで通用するか試してみようと思ったのだ。建築に対しては、案外貪欲で、しかも自然と素直な行動がとれる。

これが34年経った今でも、自然体の自分でいられる原点であり、ありのままの姿かもしれない。



Sawada Masaru

1958年群馬県生まれ。81年、日本大学生産工学部建築工学科卒業、同年竹中工務店入社。83年より東京本店設計部。作品は、池田山ゲストハウス(90年)、ソニー健康保険組合熱海保養所(94年)、渡邊記念館(97年)、川口SKIPシティ(2003年)、サンアイ銀座ビル(08年)など、多数。13年より設計部部長。現在、生産工学部建築工学科総合コース2年生の設計授業を担当。関連リンク：<http://www.takenaka.co.jp/designservices/index.html>

新しい・楽しい未来が開かれた3年間

市原卓 (戸田建設横浜支店次長、1982年大学院理工学研究科博士前期課程修了)

齋藤賞を受賞して社会へ

私は1982年3月大学院理工学研究科博士課程前期修了時に「集合住宅における重量衝撃音による床衝撃音の評価に関する研究」でまったく予想していなかった齋藤賞の受賞の栄を賜りました。

76年4月、建築家に憧れて理工学部の建築学科に入学したのですが、3年間自分自身の能力不足や努力不足で、成績も特別よいというわけでもなく、漫然とした学生生活を過ごしていました。目的意識の高い学生は早期から自分の希望する研究室まわりをしているのに、私が木村研究室のオリエンテーションに行ったのは、75年3月、3年次の後半のことでした。

当時の木村研究室は木村翔教授(当時、以下同)、関口克明助教授、井上勝夫専任講師、現在デジタルハリウッド大学学長の杉山知之助手、光田(吉野)泰子博士後期課程2年生、荘美知子研究生(故人)が在籍されており、環境工学の世界で活躍している先生方と大学院生に、私のような飛び込み学生に快く、楽しく説明していただき、私はすぐに卒論の研究室として希望させていただきました。



齋藤賞の副賞でもらった腕時計は、33年間愛用している

没頭した最新技術の研究

木村研究室は建築環境工学の研究室で、木村先生の指導の下、当時は、主に集合住宅、航空機などの「騒音」に関する研究と、音楽ホール等の設計に関する「ホール音響」を二大テーマとしていました。

私は木村研究室の「騒音班」へ入ることが決まり、大学4年生時代は木村先生・光田先生の指導で「集合住宅の給排水騒音に関する研究」を、大学院代時の修士論文では木村先生・井上先生の下「床衝撃音の評価に関する研究」を勉強いたしました。

私にとってのこの3年間は、かつて経験したことのないくらい忙しく、暗騒音の小さい夜中に試験用音源の測定・収集に奔走したり、5号館9階の大型コンピュータ室(当時大学院生が大型コンピュータを直に動かすことのできる大学は、東京大学と日本大学くらいといわれていた)、6号館ペントハウスの無響室、5号館の研究室になん日も泊り込んで昼夜、実験・解析・検討に明け暮れました。

特に、コンピュータを駆使したデジタル処理により任意の床衝撃音時間応答波形を作成したことは、当時と

しては最新の考え方・技術であったため、完成時の喜びは今でも忘れられません。この成果が受賞の大きなポイントとなったと先生方からうかがいました。

出会いで広がるその後の人生

私は今回の寄稿に際し、ぜひとも現役の学生の皆さんにお伝えしたいのは、一生懸命に勉強しようと思った学生には、日本大学の先生方は親身に受け止めてくれる環境があり、皆さんが自ら動いて興味のある分野の先生に相談すれば、新しい・楽しい未来が開かれるということです。

木村研究室での、木村先生、井上先生をはじめとする本当に素晴らしい先生、先輩、同輩、後輩との出会いや、多くの方々からご指導いただいたこと、そして、「齋藤賞」を受賞したことは、その後の自分の仕事や人生に、大いに役に立ちました。この場を借りて、御礼申し上げます。

今後も、日本大学のますますの隆盛を祈るとともに、後輩学生のために、微力ながら貢献できればと思っています。



Ichihara Takashi

1956年東京生まれ。82年日本大学理工学部建築学科卒業、82年同大学院理工学研究科前期博士課程建築学専攻修了、同年戸田建設入社し、名古屋支店建築部に配属され、愛知県、三重県、静岡県内の事務所ビル、公立中学校、公立小学校、病院、ホテル、マンション、他の工事の現場管理を担当する。現在、戸田建設株式会社横浜支店・支店次長(営業担当)。一級建築士、一級施工管理技士、コンクリート技士。

学究の道へ進むきっかけに

若井正一 (工学部上席研究員、元工学部建築学科教授)

先生方のご指導と後輩の協力

私が「齋藤賞」を受賞したのは、本学工学部に大学院工学研究科が創設されて間もない、今から40年前のことです。論文名は「都市における社会福祉施設に関する建築計画的研究」、指導教員は、大串不二雄教授と佐藤平助教授(当時)でした。

その内容は、多様な種類の社会福祉施設を対象として全国の分布状況をマッピングして配置実態を把握するとともに、主要都市における社会福祉施設の利用実態調査を行い、福祉施設の問題点や今後の展望などについてまとめたものでした。本論文を構想する土台となったのは、理工学部の卒業研究(指導は関沢勝一教授)で取り組んだ情緒障がい児の福祉施設に関する調査研究でした。

当時は、アナログの時代でしたので、配置マップなどの作成はいずれも手書きで時間がかかる厄介な作業でしたが、当時の卒研生たちの尽力によっ

て全国版の配置マップを完成することができました。

また、地方自治体が運営する社会福祉施設に対する実態調査で、鳥取県の高齢者福祉施設を訪問した時に、その施設に隣接したゴミ焼却場の余熱を暖房や給湯等に再利用していたこと、入所者の娯楽として多くのパチンコ台が設置されていたことなど、今でも当時の場面が鮮明に回想されます。

論文発表会では、当時の教授全員から手が上がり、矢継ぎ早に厳しい質問がありました。特に、論文中に記載した「幸福とは～」の質問には、冷や汗がでたことを記憶しています。その後、審査の結果、はからずも本論文が栄誉ある「齋藤賞」に推荐されることになりました。

当時、私は美術系大学から建築士の資格取得を目標に日大建築へ転入学して、さらに、本学の副手として勤務した後に大学院へ進学したので、同輩の院生よりも若干年上でした。

設計か学究の道か、思案の時

幸い、大学院在学中に一級建築士を取得できたので、大学院修了後の進路は、設計の道か、学究の道か、大いに思案していました。

そんな折に「齋藤賞」を受賞したことは、学究の道へ進むことを決意させた契機でした。それから昨年3月に定年退官するまでの約40年間、本学の教員として後進の指導に就いてきました。

この間、私の研究室を巣立った大学院生と卒研生の数は、総勢750名(大学院生62名、学部生688名)でした。彼らには、日大建築で育んだ絆を大切に、幸せな人生を歩んでほしいと願うばかりです。

最後に、本賞を創設された齋藤謙次先生のご遺徳に敬意を表するとともに、桜門建築会のますますのご発展と関係諸氏のご多幸を心より祈念いたします。



卒研生、院生たちとの記念撮影(2013年)



Wakai Shoichi

齋藤賞を受賞した論文「都市における社会福祉施設に関する建築計画的研究」と賞状、副賞の腕時計

1946年新潟県生まれ。武蔵野美術大学を中退後、73年日本大学理工学部建築学科卒業、75年同大学院工学研究科修了。その後、東京大学大学院より博士(工学)授与。75年より日本大学工学部助手、講師、助教授を経て主任教授、大学院専攻主任、工学部図書館長などにあたり、2014年退官。日本建築学会理事・東北支部長、日本インテリア学会理事・評議員・東北支部長などを歴任する。

自信を深め、建築の考えを確認した受賞経験

澤田瑛那 (東京大学大学院工学系研究科建築学専攻、2010年短期大学部建設学科卒業)

自分なりの答えが評価される

卒業設計は建築に対して自らがもっている問題点を提示し、さらにそれに対して自ら答えをださなければならないものです。建築を学び始めて2年という短い期間で卒業設計に臨むことは、当時の私にとって、とてもたいへんなことでした。

悩んだ末に、かつて日本の建設事業の現場を支えていた町、東京都荒川区にある“山谷”を敷地に選びました。“山谷”という町は高度成長期には日雇い労働者で賑わいをみせていましたが、今では行き場をなくした人びとが集まり、路上で生活する人びとも見受けられます。

私はこの問題の答えとして、彼らに対し偏見をもたない新たな世代である子どもの存在を媒介とし、ともに子どもと町を育てる提案をしました。自由に変化する空間と、それらをつなぐ大きな屋根が、そ

こにいる人びとを守り、つなぎながら町のシンボルとなっていく計画です。

この答えに対し「桜建賞」という素晴らしい賞をいただきました。自分の考えていたことに共感し、その可能性を評価していただいたことに驚きながらも、本当に嬉しく同時に自信となりました。

その後、千葉大学に3年次編入しましたが、意匠系の研究室に所属したのも、この賞をいただき設計をしていくことへの自信がもてたためだと思います。そして短期大学部の時と同様に2年後千葉大学での卒業設計が待っていました。2回卒業設計を経験したことは、自らの建築への考えを確認するととてもいい機会となりました。

進学を決意するひとつの要因

さらに千葉大学を卒業後、東京大学大学院への進学を決めたことも「桜建賞」を受賞できた自信が

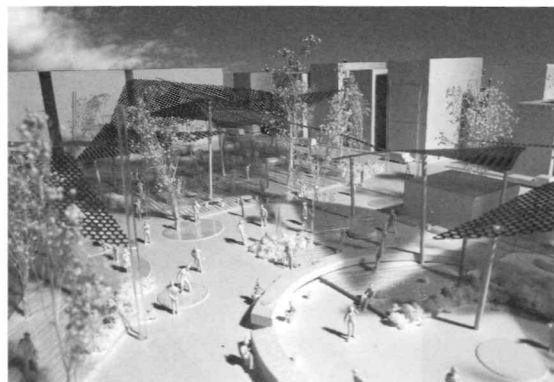
あったためだと思います。常に挑戦していくことは、自分に自信がなくてはできないことです。どのような環境においてもがんばっていける強さは、かつて努力したことへの評価である「桜建賞」というかたちで私を力づけ、常に自信を与えてくれました。それは現在も変わりません。

「桜建賞」は変化を迫られた時に、自信をもって道を選択するための道標となってくれました。短期大学部を卒業して5年経ちますが、この先なん年たっても、どのような時、場所においても同じように私を支える自信となってくれることでしょう。

そしてこの賞は決して私ひとりの力で手に入れたものではありません。指導してくださった先生方、支えてくれた家族、友人たちの存在をも、「桜建賞」はかたちとして私に残してくれたのだと今も感謝しています。



Sawada Ena
1988年東京生まれ。2010年日本大学短期大学部卒業。卒業時に、優等賞、桜工賞も受賞。同年千葉大学工学部建築学科編入学。現在は東京大学大学院工学系研究科建築学専攻千葉学研究室に所属する。



左は2009年度桜建賞受賞作の「Sanya Concert-都市と育むこどもの居場所-」。下はその時の賞状



ひとりの研究者誕生のきっかけに

北嶋圭二 (理工学部海洋建築工学科准教授、1986年理工学部海洋建築工学科卒業)

とにかく楽しかった卒業研究

約30年前の1986年3月に海洋建築工学科4期生として卒業し、ゼネコンに就職した。卒業研究のタイトルは「弾性一葉双曲面形状シェルモデルの気中・水中振動実験に関する研究」であった。海洋建築工学科では3年次からゼミ生として研究室に所属し、4年次に卒業研究に着手する。私は、海洋構造物の振動に興味があったことから西條研究室に所属した。

当時、西條研究室には大学院博士後期課程所属の倉田冬彦先輩がおり、われわれ卒研生の指導を熱心にしていただいた。週1、2回の勉強会、夏休み期間中に水槽実験棟で行った水中振動実験、大型電算機室に泊まり込みながら行った実験結果のフーリエ解析。30年以上経った今でも、どれをとっても非常に思い出深く印象に残っている。研究内容は、シリコンゴムを使って自分たちで作製した直径25cm、高さ50cm程度のHPシェルモデル試験体を、水中振動台上に設置し、水位を徐々に増やして振動実験を行うことで試験体の振動特性(固有振動数と固有モード)を実験的に調べることであった。

当時はまだPCが出始めたころなので、実験結果の解析は大型電算

機(FACOM)で行い、論文は手書きないしはワープロ専用機(書院)を使っていた。研究発表ももちろんパワーポイントなどなく、OHPシートに印刷した資料にカラーシートを貼りつけて見栄えを整えて発表した。

とにかく楽しかった!

そして幸運にも卒研発表会で「桜建賞」をいただき、自信をもってバラ色の社会人人生を夢見てゼネコンに就職した。

仕事をしながら勉強も

しかし、その夢はかなり甘かった。今となれば当然であるが、施工管理に関する知識も経験もまったくない新入社員が、まともに仕事ができるわけがなかった。「石の上にも3年」と辛抱していたら少しずつ仕事にも慣れ、なんとか仕事をしている気にもなってきた。しかしその時、一生自分はこのまま、施工管理の仕事が続けていようのかと、大いに悩む日々が続いた。そして、とても充実していた卒研時代を思い出し、研究分野の仕事に従事したいと会社に技術研究所への配属転換を願いでた。さらには、数年後、社会人大学院制度を利用して仕事をしながら、海洋建築工学専攻の大学院生とな

ることができた。

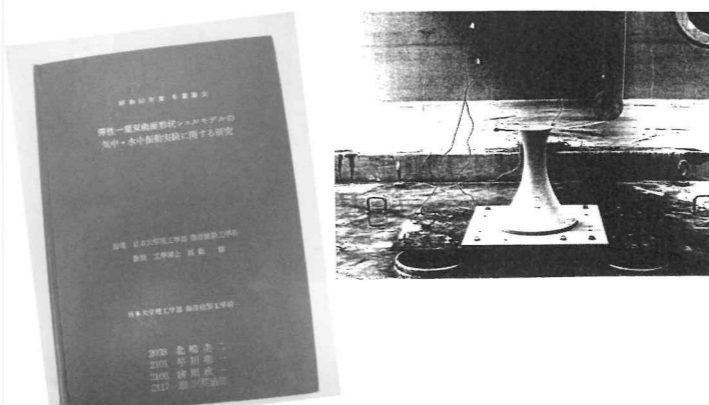
そしていわずもがな、砂漠に水を撒くような状態で、修士2年・博士3年と計5年間の充実した社会人大学院生活を送ることができた。とても寛大な判断で配属転換や社会人大学院入学を許可してくれた会社の方々、そして卒研時代には研究室の所属学生ではないにも関わらず社会人大学院生として研究室に受け入れていただき、懇切丁寧にご指導、ご鞭撻いただいた安達洋先生、中西三和先生には感謝の念でいっぱいである。

その後、会社の仕事ではいくつかの研究開発で成果をあげ、実用化して大いに社業に貢献することができた。そして晴れて3年前の2012年4月に海洋建築工学科の教員として母校に帰ってくることができた。卒研での研究内容とその後の研究分野は必ずしも一致していないが、なにかを追求する充実感を初めて味わった卒業研究であった。その時代を「桜建賞」受賞で締めくくれたことが、その後、一介の研究者の誕生のきっかけとなったのかも知れない。



Kitajima Keiji

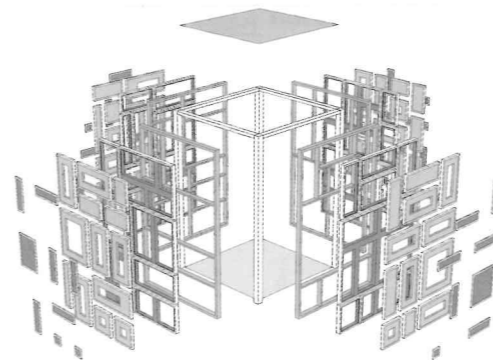
1963年東京都生まれ。86年日本大学理工学部海洋建築工学科卒業。同年、青木建設入社。89年日本大学大学院理工学研究科博士前期課程に入学し、94年博士後期課程修了。博士(工学)取得。2010年青木あすなる建設(旧名/青木建設)技術研究所所長。12年日本大学理工学部海洋建築工学科助教。13年准教授になり、現在に至る。



左は製本した卒業論文、右は実際に行った振動実験の様子

トピックス◎
第6回日本大学桜門建築会学生設計コンペティション結果報告
 テーマ/間(あいだ)の家

小川博央賞
 「間の開閉」 島崎翔



左/7月16日に行われたレクチャー。左から審査員の菅原大輔氏、鍋島千恵氏、小川博央氏。中/11月22日に2次審査が行われたCSTホール。正面の壁には全応募作品を掲示した。右/最終審査に残った作品の前で議論する審査員

昨年で6回目を数える桜建会主催の設計競技「日本大学桜門建築会学生設計コンペティション」の公開審査会が、昨年の11月22日に理工学部CSTホールで開催された。

今回の審査員は、活躍が目されている本学卒業生の若手建築家、小川博央氏(2000年生産工学研究科修了)、菅原大輔氏(2000年理工学部建築学科卒)、鍋島千恵氏(1998年生産工学部卒)の3名。

公開審査では1次審査を通過した11案のプレゼンテーションと講評を行い、議論の結果、理工学研究科建

築学専攻M2の江崎桃子さんが最優秀賞を獲得した。

日本特有の概念「間」がテーマ

公開審査会に先立って行われた7月16日の公開レクチャーのなかで、「間(あいだ)の家」という今回のコンペの課題が3名の審査員により出題され、人間・時間・空間それぞれの間合いである「間」という日本特有の概念にフォーカスされた課題の意図が述べられた。

3氏によれば、「間」とは、絶対的な基準で観測が可能なものではなく、

なにかとなにかの関係をとりもつ媒介項のようなものであるという。人がもつ領域と領域との間、建物と建物との間、あるいは土地と建物との間など、目に見える物理的なものや、目に見えない概念的なものに存在する、さまざまなスケールの「間」にあふれた新しいライフスタイルを想起させる住宅を提案して欲しいと、会場に集まった学生たちに期待が寄せられた。

また、あわせて行われた3氏のレクチャーでは、今回の出題テーマに関連づけて自身の活動が紹介された。

小川博央氏は、東松山市に計画された結婚式場のプロジェクトを紹介した。そのファサードが柔らかい印象を与える一方で、硬いスチールで構成されていることを示しながら、実体と印象との間に生じているギャップがもつ意味を会場に問いかけた。

菅原大輔氏は日本の都市に存在する5000万の住戸のうち3000万戸が戸建であることを指摘した。延べ面積に換算すると前者が千葉県面積、後者が東京都面積に匹敵することを示し、住宅を群としてとらえ

れば都市的なスケールへと接続することができる」と述べた。

そして、鍋島千恵氏は、自身が手がけられたいくつかの住宅を例にしながら、自然と人工、目に見えるものと見えないもの、自立したものとしないものなど、多様な二項対立的な事柄を相対化させる眼差しが重要だと述べた。

なお、今回のレクチャーは、インターネットの動画サイトUSTREAMの中継を行い、生産工学部の会場と同時に開催した。

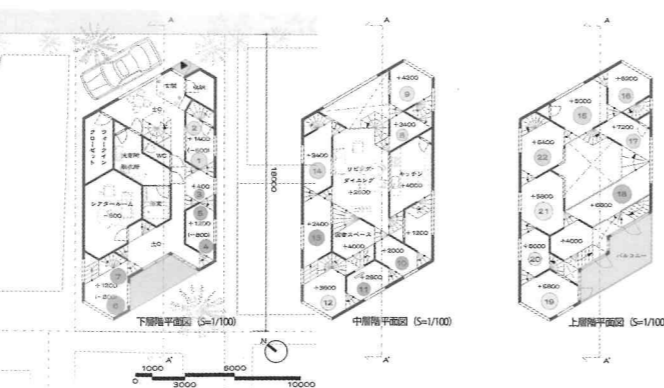
最優秀賞案はおどり場の家

9月30日の締め切りまでに各学部・学科より37点の応募があった。第1次審査での各審査員による白熱した議論の結果、11点の2次審査通過案が選出された。

11月22日に開催された公開2次審査では、通過案のプレゼンテーションと審査員による講評が行われ、議論の結果、江崎桃子さんによる「人間時間空間 おどり場の家」と題された提案が最優秀賞に選ばれた。この案は、三角形グリッドを活用しながら家の中に小さなおどり場

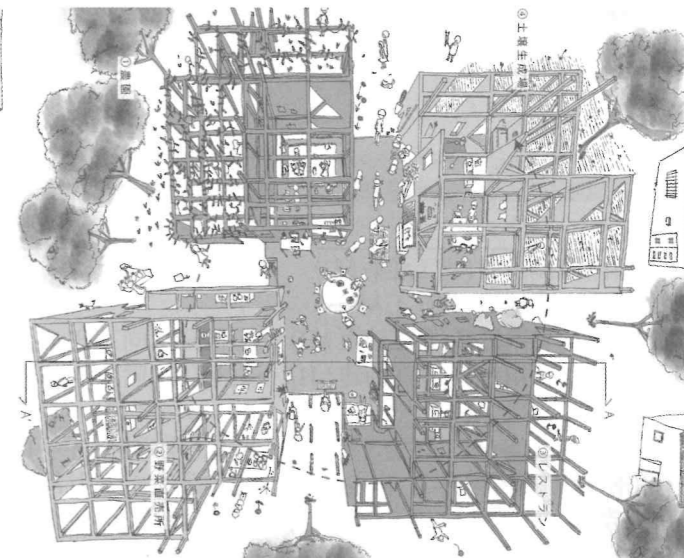
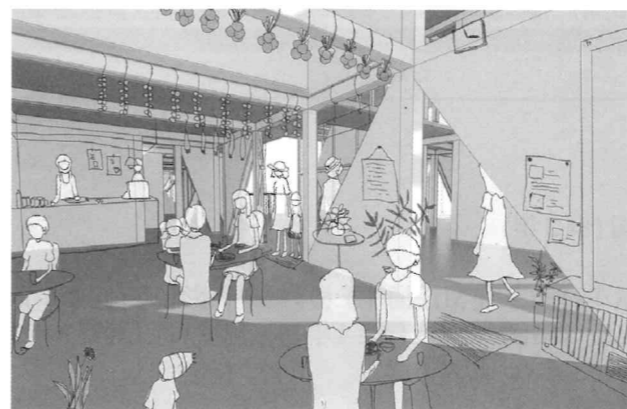
最優秀賞

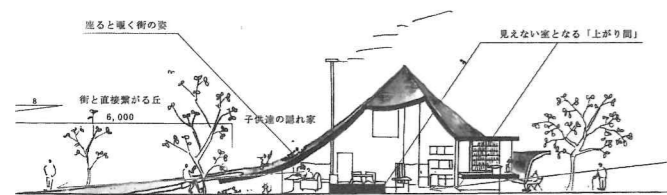
「人間時間空間 おどり場の家」 江崎桃子



菅原大輔賞

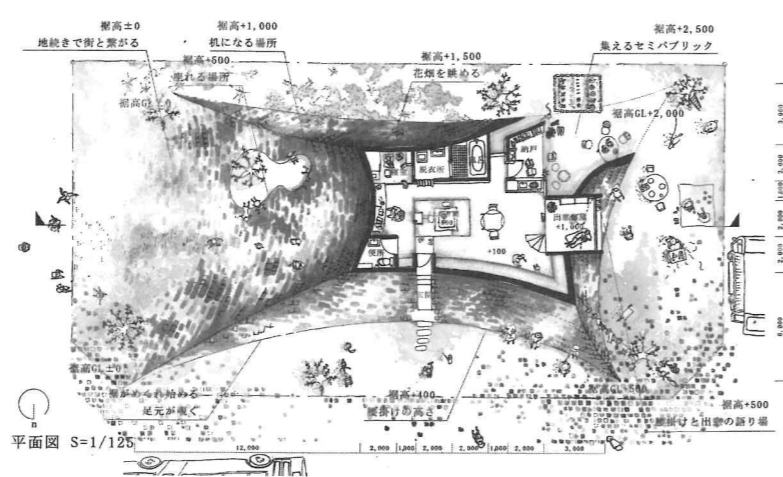
「いえの溝のいえ」 宮本悠平、岩井都夢





鍋島千恵賞

「街と孤人の間で」
山川大喜、滝村菜香、斉藤賢司



を点在させ、流動的な環境をつくり出す提案である。グリッドがもつ強制力が少し強すぎることが難点としてあげられた一方で、立体的に構成された内部空間のもつ魅力が高く評価された。

3つの審査員賞

また今回は、優秀賞ではなく審査員賞を設けて3人の審査員が評価する作品を各々選んでいただいた。

小川博央賞には、島崎翔君の「間の開閉」が選ばれた。この提案は家全体を開閉可能な建具で構成したものである。建築を構成する部位が動くことによる可変性が評価された。

菅原大輔賞には、宮本悠平君、岩井都夢君による「いえの溝のいえ」

が選ばれた。この提案は、グリーンベルトと称した農園により家同士を結びつけ、住宅地の中に住民の多様な活動をサポートする共用部を用意するというもの。老朽化していくニュータウンに対して長期的な地域ビジョンを示している点が評価された。

そして、鍋島千恵賞には、山川大喜君、滝村菜香さん、斉藤賢司君による「街と孤人の間で」が選ばれた。この提案は、住宅地の空き地に大きな赤い屋根を置き、ひとりのための住まいを設えるというもの。印象的な屋根の造形によって、地域に開かれた公園のような場所が効果的につくられている点が評価された。また、その他に佳作7点が選ばれた。

現役の建築家に接する絶好の機会

毎年建築界で活躍されている建築家を審査員に招いて開催している本コンペティションだが、37点という今回の応募総数は、昨年度より若干増加したものの、日本大学に在籍している学生数からみれば、まだまだ十分な数だとは言えないだろう。

第一線で活躍する建築家が出題する課題に取り組むことは、建築や都市に対する理解を深める上で、たいへん有意義なものであることは、疑う余地がない。

学生諸君には、各自の腕を磨く場として、来年度も本コンペを積極的に活用してもらいたいと思う。

(古澤大輔/理工学部建築学科助教)

審査結果

最優秀賞/江崎桃子(理工建築M1)

小川博央賞/島崎翔(生産工M1)

菅原大輔賞/宮本悠平(理工建築M1)・岩井都夢(同M1)

鍋島千恵賞/山川大喜(理工海建M1)・滝村菜香(同4年)・斉藤賢司(同3年)

佳作/石川大二郎(理工建築3年)、稲葉来美(理工建築3年)、遠洞躍斗(理工海建M1)・涌井匠(同M2)・山影悠時(同4年)、斎藤佑樹(理工建築4年)、宮本悠平(理工建築M1)・岩井都夢(同M1)、森田秀一(理工建築4年)、吉村凌(理工建築3年)

応募総数37点 内訳/理工建築25点、理工海建3点、工2点、生産工6点、短大1点

*最優秀賞、小川博央賞、菅原大輔賞、鍋島千恵賞は表紙にも写真を掲載しました。

研究室紹介

研究テーマ

建物の遮音性能の測定・予測・評価手法に関する研究

研究室名

環境工学研究室

教員名

教授・濱田幸雄

キーワード

遮音性能/防振/吸音/床衝撃音/音響透過損失/模型実験

企業等への要望

共同・受託研究の要請 計画・設計等の協力 研究成果の事業化等 その他(実作、試作等の協力)

研究概要

「快適な空間」を評価する指標のひとつである「音環境」に関する研究を行っています。特に、遮音性能の予測計算手法に関する研究、模型実験手法を用いた高性能遮音壁・床構造の開発、さらに心理学的測定法を用いた各種音響性能の評価方法に関する研究を行っています。

連絡先◎工学部建築学科16号館3階 TEL 024(956)8752 E-mail 濱田/hamada@arch.ce.nihon-u.ac.jp

研究テーマ

建築物の動的設計に関する研究

研究室名

神田研究室

教員名

教授・神田亮

キーワード

動的外乱/地震荷重/風荷重/動的設計法/免震構造/制振構造

企業等への要望

共同・受託研究の要請 計画・設計等の協力 研究成果の事業化等 その他(復興計画など)

研究概要

本研究室では、建築構造物を動的な側面から設計するための基礎的な研究を主に行っている。近年の都市の発展は目覚ましいものがあるが、反面、都市防災を考えた時、それは非常に多面化している。具体的にあげれば、地震や台風などの災害に対し人命の尊重はもちろん、建物資産価値の保全、災害直後からの都市機能の確保などである。現行の静的な考えに基づいた設計法では、これらすべてに対応するのは難しく、かつこれらを経済的に行おうとすれば、動的な考え方に基づいた設計法が必要であろう。

これらを鑑み、現在本研究室では慣性接続要素による建築物の風応答制御に関する研究、超高層免震建築物の耐震・耐風性に関する研究、木造住宅の耐震診断・耐震補強に関する研究、超高層建築物の居住性に関する研究、自然風中における配電線機材の疲労損傷に関する研究などを行っている。

また、今までの本研究室の業績であるが、まずは当研究室独自に開発したハイブリッド振動法は、日本機械学会論文賞をはじめ、いくつかの学会賞を受賞している。ハイブリッド振動法は、ハイブリッド式実験を構造物の空力振動をシミュレーションするために風洞実験に応用したもので、構造物の空力不安定振動を含めて、多くの利点をもって研究を遂行することができる。

最後に本研究室は地震のみならず風外力に対してもその安全性を包括的に検討しており、このふたつの荷重に対する対応が可能である。

連絡先◎生産工学部建築工学科 津田沼キャンパス5号館5階 TEL 047-474-2521 E-mail 神田/kanda.makoto38@nihon-u.ac.jp

齋藤賞・加藤賞・桜建賞 平成26年度受賞者一覧 ＊受賞作品の紹介は次号に掲載いたします

齋藤賞

前田浩靖 (理工学部建築/修士論文)
「U字型コースターの地震時挙動に関する基礎的研究 -台車の移動が地震応答性状に及ぼす影響について-」
指導/教授・岡田章

丸山明恵 (理工学部建築/修士論文)
「住宅建築における音環境トラブルの発生構造に関する検討」 指導/教授・井上勝夫

長崎透 (生産工学部/修士論文)
「長方形断面を有する鋼・コンクリート合成部材の構造性能に関する研究」 指導/教授・藤本利昭

星賢護 (工学部/修士論文)
「4節点梁要素による平面構造物の有限要素解析法に関する基礎的研究」 指導/准教授・野内英治

加藤賞

鷹島充寿 (理工学部海洋建築工/修士論文)
「市民が望む調整池の親水公園化整備に関する研究」 指導/教授・桜井慎一

青木秀史 (理工学部海洋建築工/修士論文)
「水害常襲地帯における地域・建築と住民生活に関する研究」 指導/教授・畔柳昭雄、准教授・坪井壘太郎

秋本悠喜 (理工学部海洋建築工/修士論文)
「教訓を後世に伝承する津波碑の保存整備に関する研究」 指導/教授・桜井慎一

桜建賞

鎌倉武人 (理工学部建築/卒業論文)
「偏心 RC 造骨組に対する偏心率規定の根拠と妥当性に関する基礎的検討」
指導/教授・白井伸明、准教授・田嶋和樹

田中友基 (理工学部建築/卒業論文)
「D.M. 付制震アウトフレームを用いた連結制震システムの性能実験」 指導/准教授・秦一平

高鹿允義、古川 淳一 (理工学部建築/卒業論文)
「鉛直振動に対する振動性能評価の検討」 指導/教授・井上勝夫、准教授・富田隆太

飯田千恵 (理工学部建築/卒業論文)
「精神障害者施設の建築計画における留意点に関する研究」 指導/教授・八藤後猛

土屋伸吾 (理工学部建築/卒業設計)
「偶然の出会いを誘発する、螺旋図書館」 指導/教授・今村雅樹

李潤貴 (理工学部建築/卒業論文)
「しゃれ街条例にもとづく街並み景観づくり制度の運用実態に関する研究」 指導/准教授・川島和彦

白坂真 (理工学部海洋建築工/卒業論文)
「塵芥の灼塔 -都市部における新しい清掃工場の提案-」 指導/専任講師・佐藤信治

桜建賞

原田耕成 (理工学部海洋建築工/卒業論文)
「黒鉛を摩擦材とした滑り基礎構造建物の加振実験」 指導/教授・中西三和、准教授・北嶋圭二、安達洋

木村和樹、長谷川伸一、毕 成林 (理工学部海洋建築工/卒業論文)
「PC 構造の復元力特性に関する研究 その2」 指導/教授・浜原正行

小室拓弥 (生産工学部/卒業論文)
「表面構造と水接触角の関係に関する研究」 指導/准教授・永井香織

大滝優人、中村優穂 (生産工学部/卒業論文)
「津田沼キャンパス内建物の地震時挙動 -4号館の振動特性-」 指導/教授・藤本利昭

熊田健太 (生産工学部/卒業論文)
「FEM 解析に基づく場所打ち杭施工時の山留め壁水平変位の簡易評価に関する研究 -簡易評価法を用いたシミュレーション-」 指導/助教・下村修一

北浦佑季 (生産工学部/卒業設計)
「国際建築大学 日本分校」 指導/教授・浅野平八

岡田遼 (生産工学部/卒業設計)
「建具室礼亭」 指導/准教授・岩田伸一郎

中島希 (工学部/卒業設計)
「見えない囲い -施設の面的解体-」 指導/准教授・浦部智義

原崇太 (工学部/卒業論文)
「Tabu Search による大規模組合せ最適化問題の解法に関する研究 -杭の最適配置問題への応用とその有効性について-」 指導/准教授・ブントラ .S. ガン

小島雅史、佐藤進悟 (工学部/卒業論文)
「ポーラスコンクリートの圧縮性状」 指導/教授・出村克宣、助教・齋藤俊克

平澤聖子 (工学部/卒業論文)
「特別支援教育における特別支援学級の教室環境に関する調査研究 -特別支援学級の児童と教諭の行動特性及び使用された空間について-」 指導/准教授・松井壽則

戸井田翔吾、豊島隆明、中村宗司、村上悠 (工学部/卒業論文)
「応急仮設住宅の遮音性能改善に関する研究」 指導/教授・濱田幸雄

内藤麻美 (短期大学部/卒業研究・設計)
「さくらのあと -佐倉城址公園に咲く七つの門-」 指導/教授・矢代眞己

佐々木美和 (短期大学部/卒業研究・論文)
「ダイレクトヒートゲインによるリサイクル床材の蓄熱効果に関する研究」 指導/教授・吉野泰子

特集・余録 授与賞一覽

大学では、学生の勉強の成果を顕彰する各種の賞が設けられている。ここでは桜建賞を含めた賞の種類を、各学部、学科ごとに整理して表にした。次号では本年度のそれぞれの賞の受賞者とテーマを紹介する。

学部/学科	学部/大学院	賞名	授与対象・数
理工学部建築学科	学部	桜建賞	卒業論文5 / 卒業設計1
		奨励賞	卒業論文3
		駿優賞	卒業設計1
		AD賞	卒業設計2
	大学院博士前期	齋藤賞	環境系修士論文1 / 構造系修士論文1
		吉田鉄郎賞	計画系修士論文1 / 修士設計1
		桜建賞	環境系修士論文1 / 計画系修士論文2程度 / 修士設計4程度
		駿構賞	構造系修士論文2
		奨励賞	環境系修士論文1 / 構造系修士論文3 / 計画系修士論文1程度
		不動産科学専攻研究奨励賞	不動産科学専攻修士論文2
理工学部海洋建築工学科	学部	桜建賞	卒業研究(卒業論文+卒業設計)3
		海建優秀賞	適宜
	大学院博士前期	加藤賞	修士研究(修士論文+修士設計)3
生産工学部建築工学科 今年度より一部改訂予定	学部	桜建賞	卒業設計2 / 卒業論文3
		UIA賞	卒業設計1
		建築工学科デザイン賞	卒業設計5
		中国科技大学賞	卒業設計1
		建築工学科論文賞	卒業論文2
	大学院博士前期	齋藤賞	修士論文1
		金井賞	修士論文1
工学部建築学科	学部	桜建賞	卒業論文5
		齋藤賞	修士論文1
	大学院博士前期	北桜賞	修士論文1~3
短期大学部建築・生活デザイン学科	学部	桜建賞	卒業研究2(設計1 / 論文1)
		奨励賞	適宜

事務局だより

平成27年度の桜門建築会総会のご案内



会場案内図 / JR御茶ノ水駅、地下鉄丸ノ内線お茶の水駅、地下鉄千代田線新御茶ノ水駅より、徒歩5分程度

来たる5月27日(水)に平成27年度の桜門建築会総会を、東京ガーデンパレスにて開催いたします。会員の皆さまは、どなたでもご出席できますので、どうぞふるってご参加

ください。なにかご不明な点がございましたら、HPをご覧くださいか、下記事務局までお問い合わせください。総会は18時から、懇親会は19時から、会費は8000円です。

新入特別維持会員のご紹介

新規入会者 氏名/卒業年/勤務先 (平成26年11月6日~平成27年2月5日) 2名

浦憲親 工-45 金沢工業大学

笠原隆 理工建-63 東京大学

桜建会報 NO.102 2015-March

発行人 岩井光男

編集 桜門建築会広報委員会

〒101-8308 千代田区神田駿河台1-8-14

日本大学理工学部内

広報委員会

委員長 佐藤慎也(理工学部建築学科)

副委員長 塩川博義(生産工学部建築工学科)

大川三雄(理工学部建築学科)

委員 山本和清(理工学部海洋建築工学科)

亀井靖子(生産工学部建築工学科)

ブントラ・S・ガン(工学部建築学科)

矢代眞己(短期大学部建築・生活デザイン学科)

大西正紀(mosaki)

北川健太(セカイ/青年部代表)

西山麻夕美(フリー編集者)

桜建会事務局

住所・所属の変更、クラス会の開催、投稿、会費、名簿など桜建会全般についてお気軽にご連絡、お問い合わせください。理工学部5号館7階574A号室
TEL03-3259-0649 FAX03-3292-3216
E-mail kaiin@okenkai.jp

ホームページ <http://www.okenkai.jp/>

専任/星野麻衣子

非常勤/櫻井佐和、大木明子

業務時間/AM10:00~PM5:00(月~金)

学部ニュース



トピックス

◎土方吉雄准教授は、2014年7月、福島市より福島市住宅マスタープラン策定委員会委員を委嘱され委員長に選出、また福島県より福島県自然環境保全審議会専門委員を委嘱、8月には郡山市より郡山市建築審査会の会長、郡山市総合治水対策連絡協議会副委員長に選出された。10月には、福島県より福島県土地収用事業認定審議会委員を委嘱され、会長に選出された。
◎浦部智義准教授(研究室一同)と平野非常勤講師は、2014年7月4日、「ふくしま子育て環境構築プロジェクト」の「かつしか風の子保育園・学童保育クラブ」で第8回キッズデザイン賞を受賞した。

◎齋藤俊克助教は14年7月、公益社団法人日本コンクリート工学会よりコンクリート工学年次大会2015(千葉)実行委員会生コンセミナー部会委員を委嘱された。
◎浦部准教授(研究室一同)は、計画・設計に関わった唐櫃美術館(香川県・豊島)において、夏期休暇中に福島震災アーカイブの展示・運営を行った。
◎出村克宜教授は、2014年9月1日に日本大学副学長(研究[含む研究所]、産官学連携知財センター、総合学術情報担当)に就任した。
◎浦部准教授は、2014年9月日本建築学会文化施設小委員会主査として、上田市交流文化センター・市立美術館で

行った研究会「地方におけるこれからの公立文化施設」の企画・運営・進行を担当した。
◎浅里和茂教授は、2014年9月福島県建築安全機構が主催する「高校生が参加する地域防災授業」の一環として「地震のメカニズム」と題する講義を福島工業高校、郡山北工業高校、会津工業高校の県内3つの工業高校で行った。
◎サンジェイ・パリーク准教授は、2014年10月インド技術者協会から招待講演依頼があり、「Application of Self-Healing Technology in Concrete Products in India」と題して講演し、功労賞を受賞した。

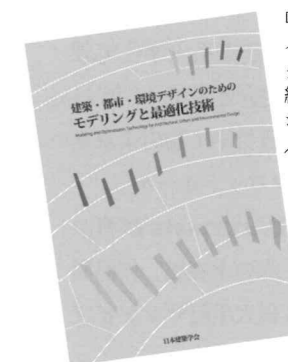


海洋建築工学科 トピックス①

◎大学院博士前期課程2年の秋本悠喜君(桜井研究室)は、2014年10月日本沿岸域学会研究討論会2014優秀講演者賞を受賞した。これは同年7月25日に静岡市の東海大学で開催された上記討論会で発表した論文「市民認知を継承する津波碑の保存・整備に関する研究」の講演に対するもの。なお秋本君は昨年度も同賞で表彰されており、2年連続での受賞となった。
◎大学院博士前期課程2年の鷹島充寿君(桜井研究室)は14年10月、日本沿岸域学会研究討論会2014優秀講演者賞を受賞した。これは同年7月25日に静岡市の東海大学で開催された上記討論会で発表した論文「大型クルーズ船の受け入れ体制に関する研究」の講演に対するもの。

◎15年2月日本建築学会海洋建築委員会が検討してきた「海洋建築計画・設計指針」が日本建築学会より出版されました。本指針の執筆には、本学科から畔柳昭雄教授、小林昭男教授、桜井慎一教授、中西三和教授、川西利昌特任教授、新宮清志特任教授、近藤典夫准教授、北嶋圭二准教授、恵藤浩朗助教、大塚文和助教の10名が関わっている。また、この指針の内容を解説する講習会が同年2月建築会館ホールで開催され、第2章海域特性の内容を桜井慎一教授が、第4章設計および第5章管理の内容を中西三和教授が解説を行った。
◎新宮清志名誉教授が中心となって日本建築学会のソフトコンピューティング小委員会で作業を進めていたが、こ

の度、書籍『建築・都市・環境デザインのためのモデリングと最適化技術』が、3月に刊行された。また、この出版にともない、3月4日に、シンポジウム「ソフトコンピューティングによる建築・都市・環境デザインのためのモデリングと最適化技術」が建築会館会議室で開催された。



『建築・都市・環境デザインのためのモデリングと最適化技術』の表紙。(A4版、約230ページ、4600円+税、発行/丸善)

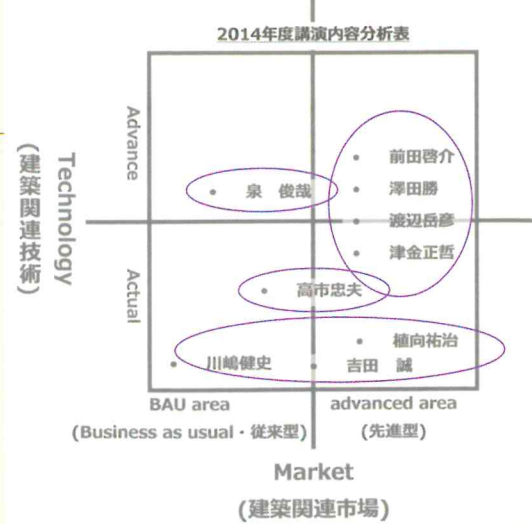


トピックス

◎浅野平八教授の最終講義「公民館建築小史」が本年1月28日に行われた。浅野教授は、当学部の大学院修了後、1971年に副手として着任して以来40余年にわたり、多くの学生たちの教育と研究の指導に熱心にあたってこられた。長い間お疲れさまでした。

◎昨年より、現役学生を対象に「更に元気になる」ことを目的として、夜学「ツグヌマ・ゲンキ塾」を開催。生産工学部津田沼キャンパス出身の卒業生有志を講師に迎えて、2014年度の講座は10回を数えた。

「ツグヌマ・ゲンキ塾」講演内容の分析表



海洋建築工学科トピックス②

【教員・学生が参加したコンペ結果報告】

①受賞者②コンペ名・テーマ③主催④作品名⑤結果⑥日時
①佐藤信治 + 佐藤信治研究室②奈良県総合医療センター周辺県有地活用アイデアコンペ③奈良県及び奈良県医療政策部病院マネジメント課⑤優秀賞⑥2015年1月21日

①浅見花、遠洞躍斗、森浩平、五十嵐淳②キルコス国際設計コンペティション2014「5つの土地と1つの家」⑤銅賞⑥14年12月25日

①出山亮、井出健、宇山浩和、戸田寛康、樋浦直紀②よこはまの海を活かしたまちづくりコンペ④東神奈川臨海図書館～本でつながるうみのまち～⑤デザイン賞

①志萱侑太、亀田宏樹、滝村菜香、福島弘明、増田顕弘②よこはまの海を活かしたまちづくりコンペ④ひと・ゆとり・まちを紡ぐ場所⑤佳作

①山影悠時、久保田礼菜、白坂真、藤本幸汰②よこはまの海を活かしたまちづくりコンペ④花が彩る水際のまち⑤佳作

①重田秀之②2014 建築系大学住宅課題優秀作品展⑤住宅課題賞⑥14年11月4日～11月21日竹中工務店東京本店ギャラリーエークウッドホール

①浅見花②第6回 Vectorworks 教育シンポジウム2014「森の水族館」作品展⑥14年8月23日大手町サンケイプラザ

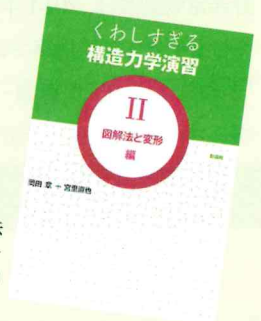


建築学科トピックス

◎所義登君(地盤基礎研M1)の論文「中空ねじりせん断によるセメント改良粘土の力学特性-セメント系固化材の種類の影響-」が、第49回地盤工学研究発表会で優秀論文発表者賞を受賞した。

◎岡田章教授、宮里直也准教授が執筆した『くわしすぎる構造力学演習Ⅱ 図解法と変形編』が発行された。本書は

問題を解くことを通じて構造力学の楽しさを味わいながら、自然と理論が身につくことを目的としている専門書。『M・N・Q編』に続く2冊目である。



『くわしすぎる構造力学演習Ⅱ 図解法と変形編』の表紙。(A5版、144ページ、価格1800円+税 発行/彰国社)



トピックス

◎高田康史短大副手の提案による、「栃木市に生まれたオーケストラ -モノ・コト・ヒトが奏でる時代の旋律-」が、第16回「美しくまちをつくる、むらをつくる提案競技」(主催/日本建築学会関東支部)で、優秀賞を受賞した。

このコンペは栃木市街地・嘉右衛門

町伝統的建造物群保存地区における「拠点のDNA -栃木市の歴史が築いた資産を活かしたあらたな拠点のすがた-」をテーマに行われ、「協奏性・蘇生・発酵」をキーワードとした継承するDNAづくりの提案が評価された。

「栃木市に生まれたオーケストラ」のプレゼンテーションの一部

●嘉右衛門町の核となる拠点：HOBBY ステーション (生活・趣味の充実が育てる日常)

時を重ね、趣味活動の幅は拡がり互いに情報交換や協働による仲間づくりが進み、街の絆も深まります。

日光調音 (風鈴の音を通す) | いるり蔵 | 町の風情 | 金庫 | 家庭劇場

地域公開領域
大通りに面した蔵は、交流拠として、街並みに合わせたファサード形成を行います。

蔵の広場 (中間領域)
蔵の再生、蔵の移築により、中庭空間を育めます。市民の中間領域としての集いの場へ成長します。

栃木の水景 (水のDNA) を受け継ぎ、水路を設け、親水性を高めます。

生活領域 (裏通り)
各々の機能を持つ蔵は、街の宝を管理し、安心安全に次世代へ受け継がれてゆきます。

◆HOBBYの発酵/生活に刺激を与えるアクティブライフ

グルメ	健康増進	研究趣味	裁縫	読書	散歩
音楽	アート	体操	園芸	マラソン	囲碁将棋
武道	書道	お酒	工芸	茶道	華道
楽器	アニメ	美容	ペット	機械	収集家

◆中間領域を創る/コミュニティを育てる
民間財団が
(中核領域をのび)

ヤマザ味噌工場跡地 (空き家の再生) として「街のHOBBY ステーション」を提案します。趣味を通じて地域住民の絆を育て、来訪者が地域住民の暖かさに触れる事で、参加交流や伝統芸術を学び街に魅力を育てます。